

# ウオッチ ひだ

日本食ブームや円安を背景に、日本食の輸出が伸びている。飛騨地域でも「SAKE」として定着した日本酒、ブランドの飛騨牛などが海外へ販路を広げており、関係者の期待は大きい。

## ■市場

「日本酒の市場は、今より十倍は伸びるのである」。飛騨市古川町の渡辺酒造店の渡辺久憲社長(右)は、こう展望する。三年前にアジア圏への本格的な輸出を始めた。初年は八百本余、昨年は千五百本、米国が加わった今年の上半期は千本と順調に伸びた。「和食が世界遺産登録され、日本酒も注目されるようになった。国が輸出に力を入れ、商談会が増えたことも大きい」

同店は昨年、英国の品評会「インターナショナル・ワイン・チャレンジ」の日本酒部門で、最高賞を

## 輸出順調 飛騨ブランドの食



インターナショナル・ワイン・チャレンジの授賞式会場で、日本酒の試飲を勧める渡辺酒造店の蔵人(左)と受賞者(右)。昨年7月、ロンドンで(渡辺酒造店提供)

# 努力続く取引先開拓

受賞。実績のPRやバイヤーとの商談を重ねてきた。輸送料や手数料が加わり、現地では三倍以上の値段になるが、富裕層に人気だ。十年前から、いち早く海外に輸出している下呂市萩原町の天領酒造も、取引先が今や十

一カ国に。今年は輸出量が前年比で三割増を見込む。期待 ほかにも飛騨地域から世界に打って出る食材がある。食品ブランド「本場の本物」に認定され、五月にミラノ万博で紹介された高山市奥飛騨温泉郷の飛騨・高原山椒。七



飛騨牛のEU輸出に向けて開かれた出発式。8日、高山市のJA飛騨ミートで

月から、香港への輸出が始まった。生産を手掛ける「飛騨山椒」によると、「ハープの一種として、現地の食材と一緒に味わってもらえる」といい、

勢いある日本酒 飛騨牛や山椒も 年からの輸出が始まった飛騨牛も今月から、欧州連合(EU)に輸出が始まった。一四年度は前年度比で七割増の十六万五千トンを輸出しており、順調な伸びを示す。 活発 農産品の輸出増加を目指す。訪日旅行者も増え、日本食の認知度が高まっており、開拓のチャンスとみる。ただ、海外との取引には為替変動への注意や市場調査などの準備が求められる。「値段設定も含め、どの国を対象とし、現地

「と、販路拡大に期待する。一三年には食品業者アジア向けに二〇〇八らが農産品輸出研究会を

## 記者の眼

飛騨地域の酒蔵を訪れると、よく外国人客が試飲している姿を目にする。海外の日本酒ファンは着実に増えているようだ。国内での消費は右肩下がりとあって、輸出の重要性は増している。 だが、輸出が進むのはブランド力が強く、生産体制が整っている食品が中心。これらを旗振り役に産品の裾野を広

## 島 将之



げられたらと期待している。高山市内では今春、和食の文化を外国人に紹介し、ファンづくりにつなげるツアーが始まった。外国人向けの料理教室などで、さらに関心を高めることができれば、輸出にも弾みがつくのではないだろうか。